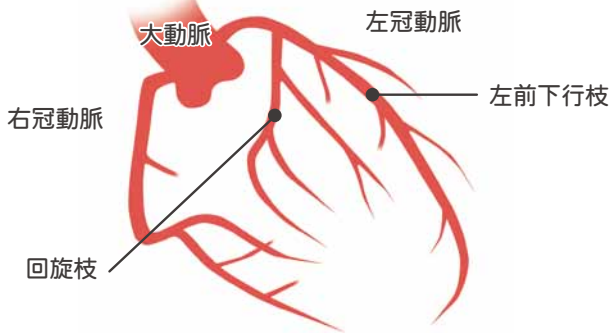


心臓の病気・治療

循環器内科 吉岡亮

狭心症とは？



心臓の周りを覆う血管「冠動脈」

心臓には、心臓自身に栄養を与えている3つの血管(右冠動脈、左前下行枝、回旋枝)があります。心臓の周りを冠の様に覆っているため、「冠動脈」といわれています。この冠動脈の内側にコレステロールがたまり、血管が狭くなると血液の流れが悪くなります。すると心臓に十分な酸素を供給できなくなり、胸の痛みや圧迫感が表れます。これを狭心症といいます。

正常な血管



酸素が不十分で
痛みや圧迫を感じる

血管に異常がある場合

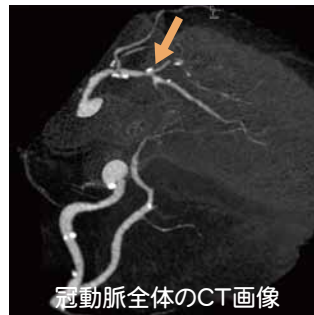


コレステロール

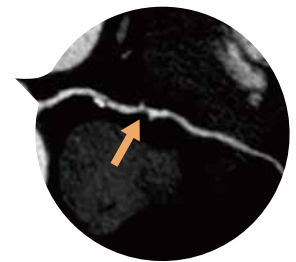


検査と治療

症状や心電図などから狭心症が疑われた場合、まず冠動脈のCT検査をおこないます。検査台の上に仰向けになり、機械の中に入って撮像するため身体の負担が少ない検査です。



冠動脈全体のCT画像



狭い血管のみ抜き出し

冠動脈の高度狭窄病変

当院では、お時間をいただきますが
当日に検査・結果説明が可能です。



冠動脈CT検査は、負担が少ない反面、動脈硬化が強くと血管に石灰化病変が多い方や、脈が速くて薬を用いても十分に遅くできない方などは、十分な検査ができない場合があります。狭心症が強く疑われた場合、カテーテル検査をおこないます。

カテーテル(細い管)を血管に直接入れて造影をおこなうため、より詳細に検査できますが、ある程度の危険性も伴います。当院では、カテーテル治療の専門医(日本心血管インターベンション学会専門医)がおこなっており、検査の質、並びに安全性を担保しています。

治療は、ステント(折り畳み式の金属の筒)を用いて、狭い箇所を拡張する方法が中心となっています。

ステント留置術

狭窄部位に
ステントを留置
して血管を
拡張します。

